道新 R05/09/27

道新聞　第3種郵便物認可

石北線存続へ 札幌でアピール

北見の市民団体 3日に

「タマネギ列車」ちらしでPR

JR石北線の存続運動に取り組んでいる市民団体「石北沿線ふるさとネットワーク」（北見）は10月3日、鉄路存続への機運を高めるため、札幌市内で北見産タマネギやちらしを配る街頭啓発を初めて行う。石北線の路線を走る北見―北旭川間の臨時貨物列車、通称「タマネギ列車」の存在もPRし、旅客・貨物双方での重要性を訴える。

石北線（新旭川―網走、234キロ）など赤字8区間（通称・黄色線区）は、JR北海道が単独では維持困難とし、地元負担を前提に存続を目指している。本年度は2019年度からのJR北海道の集中改革期間の最終年度で、8区間で進める調査・実証事業の効果を検証し、来年3月に事業の抜本的な改善方策を示すとしている。

同ネットワークは石北線存続を後押しするため、石北線の車内での特産品販売や列車への旗振りなどを続けている。タマネギ列車が、物流業界の人手不足が予想される「2024年問題」の解決の一助にもなると、今春から街頭啓発の準備も進めてきた。

街頭啓発は3日午前10時から、札幌市中央区の札幌三越（南1西3）前で行う。長南進一代表ら同ネットワーク会員と、活動に賛同する北見市役所とオホーツク総合振興局の職員が買い物客らに北見産タマネギやちらしを数百人に無償で配る。タマネギはJAきたみらいが無償提供した。

ちらしには、石北線が道内主要都市への移動や世界自然遺産・知床へのアクセスを担っていることや、タマネギ列車が農産物の輸送で日本の食を支えていることなどを記載した。同ネットワークの逢坂信治・石北本線利活用副部会長は「石北線は移動や物流に欠かせない重要な路線。大都市札幌の人たちにも理解を広げ、利用を増やしてほしい」と話している。

（相川康暁）

路線・区間名	主な観光向け列車	貨物列車
❶ 宗谷線 名寄―稚内	ザ・ロイヤルエクスプレス、花たびそうや、HOKKAIDO LOVE! ひとめぐり号	
❷ 石北線 新旭川―網走	ザ・ロイヤルエクスプレス、ひとめぐり号	季節運行
❸ 富良野線 富良野―旭川	富良野・美瑛ノロッコ号、ひとめぐり号	
❹ 釧網線 東釧路―網走	ザ・ロイヤルエクスプレス、流氷物語号、SL冬の湿原号、ひとめぐり号	
❺ 根室線（花咲線） 釧路―根室	ひとめぐり号	
❻ 根室線 滝川―富良野	フラノラベンダーエクスプレス、ひとめぐり号	季節運行
❼ 日高線 苫小牧―鵡川		
❽ 室蘭線 沼ノ端―岩見沢	ひとめぐり号	定期運行

石北沿線ふるさとネットワークが街頭啓発で使うポスター